



笠原会長(左)と事務局の佐東さん(右)

### 太鼓を通じて地域の方と交流 ～アットホームな雰囲気も素敵！ 太鼓の音色を郷土芸能の一つとして伝えていきたい～

#### 清瀬上和太鼓保存会

会長 笠原修さん・事務局 佐東明美さん

昭和40年代から活動を始めた清瀬上和太鼓保存会。会員は2歳の子どもから70代のベテランまで70人程で、年1回、活動の成果を「鼓動の響」というタイトルで発表しています。今号では、前向きな姿勢を常に持ち続け、会員同士では家族ぐるみの付き合いを行っている、清瀬上和太鼓保存会会長の笠原さんと、事務局の佐東さんにお話を伺いました。



1月12日に行われた成人式で、力強い演奏を行う会員の皆さん

笠原さんは太鼓歴32年。佐東さんと佐藤正敏前会長が開いていた、上和太鼓保存会(以下、保存会という)に小学5年生の時に入会しました。きっかけは三小の盆踊り。会員が数人だったので若い人たちが育てたいということで、佐藤前会長が募集をかけたところ、笠原さんが応募し、そのまま太鼓の面白さにはまったそうです。笠原さんは長年副会長を務めていましたが、3年前に佐藤前会長が、「若い人たちに任せよう」と、笠原さんに会長を引き継ぎました。

また、「太鼓の面の真ん中と端では音が全然違うので、長年やっているとうち、どう叩いたらよいかを自分の体が覚える」と自らの経験を話されました。教えたからといってすぐにできるものではないので、根気よく練習することが大切なのだそうです。加えて、気持ちや心の入れ方も大きく影響するそうで、お二人は「良いことがあった日と、うまくいかなかった日とは、同じ人でも聞こえてくる音が違う。太鼓には音階がないので、気持ちが入っていると『ズーン…』と、『ーン…』の響きが心地よく伝わるが、いい加減に叩くと適当な音にしか聞こえない」と目を輝かせて太鼓の魅力を話されます。太鼓の音はその人の心の在り方と共に変化する、奥が深い楽器なのでしょう。



毎年明治神宮で行っている「建国を祝う会」にて(写真は平成20年)

心したようにやすやすと寝ている」と教えてくれました。どうやら、太鼓の鼓動が、胎児の時に聞いている母親の心音と同じで、太鼓の音色にはお腹のなかに入っているような心地よさがあるようです。「お腹のなかから太鼓の音を聞いて育ち、その子が保存会に入り演奏する。そんな家族ぐるみでの付き合いが保存会の特徴です」とほほえみました。

#### 子どもたちは宝物

保存会では、子どもたちを宝物として育てています。「太鼓以外に日常からコミュニケーションを取ることで、心を開いて向き合える一瞬も大切」と話すお二人は、青少年の健全育成に力を入れていく様子が伝わります。今後の目標は、設立当初から貫いている、「地域との交流を深めながら子どもたちの健全育成を行うこと」と、「太鼓の音色を郷土芸能の一つとして残していくこと」だそうです。「自分たちができなかつたことを若い世代に継承していきたいと思っています。太鼓をやっている良かったと、子どもたちが思ってくれば一番うれしい」と話されました。

#### 太鼓の音色＝母親の心音

メンバーが妊娠すると、妊娠中から太鼓の音を聞かせながら、皆で赤ちゃんを育てているという保存会。赤ちゃんは大きな音のなかでも大丈夫なのでしょうか。お二人は、「太鼓の音がすると赤ちゃんが振り向いたり、自分も叩きたいのか、手が反応したりする」「太鼓の音色のなかで、赤ちゃんは安

#### 太鼓を通じて笑顔が生まれる

最近、高齢者や障害者の方のりハビリに太鼓が活用されていると話を聞きます。保存会でも「毎年夏に、清雅苑でボランティア活動をしている」とのこと。太鼓を叩くと利用者の方々が喜ばれるそうです。「車椅子の方を輪に入れて、一緒に演奏しているうちに、しよんぼりとしていくように見えた方がらだんだんと笑顔が出てきて。うまく音が出せない方でも心が笑顔になるんでしょうね」とうれしそうなお二人。「手が思うように動かせない方なども太鼓を叩いて音を出せると、感動して涙を流す程喜んでくれて、そんな瞬間にやりがいを感じ、やって良かった」と思うそうです。

#### 3本の木ととも

「新たな万能細胞『STAP細胞』開発の成果が1月30日付の英科学誌『nature』に発表され、海外の研究者からは『革命的だ』『また日本人科学者が成果』と称賛する声が上がった。」とのニュースに日本中が元気になったと思います。開発のリーダーは若千30歳の、かっぱう着姿で実験するムーミンが大好きな小保方晴子さんです。女子力、とんでもなく凄いですね。未来が一気に明るくなりました。

平成26年度は、消費税の増税がありますので、市民の皆さんがより安心して暮らせるよう各施策に積極的に取り組み、一般会計の予算総額は27億8千500万円、対前年度比で15億1千500万円、58%の増となりました。まず、子育て支援では、保育園待機児童ゼロを目指して、市立第1保育園に0歳児クラスを新設する他、私立せせらぎ保育園(中里一丁目)、どろんこ保育園(松山三丁目)の開設を支援し、認可保育園の定員を14人増やします。また、私立幼稚園の園児保護者負担軽減の拡充を図る他、中・高生の居場所づくりとして下宿児童館を再整備します。

また、乳がん・子宮がんの検診推進事業を国の補助金が廃止されても継続して行う他、各種がん検診の65歳以上の自己負担金をなくします。農工商振興では、昨年好評だった「きよせニンニクスタンプ事業」に対する補助を倍増し、消費税増税により消費が冷え込まないよう地域の活性化を図ります。また、研究や工夫を凝らしながら都市農業を営む農家の支援を拡充します。この他、要援護者への救急医療情報キットの配布や全小・中学校での放課後補習授業の実施など、厳しい財政状況ではありますが、行財政改革に努め、各施策にメリハリを付けた予算案としています。

清瀬市長

渋谷 金太郎

「太鼓を叩く時は、皆で輪になり笑顔になるので、疲れも吹き飛ば」と話すお二人からは、元気の良さや力強いエネルギーが感じられました。こうした良い音が出るかを伺うと、「音に正解はない。太鼓と体が一体になると、自然に緊張が抜けて手首のスナップが利くようになり、自分が出したい音が出るようになる」と教えてくれ



「第37回鼓動の響」に出場した会員の皆さん(写真は平成20年)

「車椅子の方を輪に入れて、一緒に演奏しているうちに、しよんぼりとしていくように見えた方がらだんだんと笑顔が出てきて。うまく音が出せない方でも心が笑顔になるんでしょうね」とうれしそうなお二人。「手が思うように動かせない方なども太鼓を叩いて音を出せると、感動して涙を流す程喜んでくれて、そんな瞬間にやりがいを感じ、やって良かった」と思うそうです。

#### 市民の方へ

音や振動のことを考慮すること、市内に練習場所が少ないことが悩みです。現在は主に所沢で練習していますが、市内で活動できる場所が増え、市民の方とより交流する機会が増えればうれしいです。太鼓で皆が元気になるれば、私たちが張り合いが出てきます。ぜひ演奏会を見に来てください。